

第3491図

かたばみ科



第3492図

まめ科



第3493図

まめ科



こみやまたばみ

Oxalis Acetosella L.

深山特に針葉樹林帯の樹蔭に多く見られる多年生小草本で、北半球に広く分布している。根茎は細く長く地下を匐い、先端部には古い葉柄の下部が鱗状に残り、頂から数枚の葉を出す。葉は長い葉柄をもち、3小葉からなり、小葉は倒心臓形で少し毛がある。春、花茎を出し頂に1花をつけ、花は白色又は紫紅色をおびる。ミヤマカタバミに非常に近いが、更に寒地を好み、各部とも少し小形で毛が少く、根茎は細く、蒴も短小、小葉は円形がありかどは円頭であるので区別される。和名はミヤマカタバミに似て、小形である意味。

つるなしいんげんまめ

Phaseolus vulgaris L. var. humilis Alef.

ゴガツササゲ一名インゲンマメ（誤称、真正の隱元豆は別にある。）の矮生蔓無しの一変種であって、播種後、収穫が早く、収量が多いので、広く諸州の畑に栽培される。子葉上數節で早くも最初の花を着け、莢は時に地面に接することがあり、更に各葉腋から繰り返えして側枝を出して叢生し、全株に短い総状花序を生じ、蕾、若莢、及び成熟した莢が入り交って、これを一株の上に同時に見ることが出来る。葉は茎と共に粗毛があり、3小葉を有し、托葉があり、小葉の基部には狭長楕円形の小托葉を具える。蝶形花は白色又は淡黄白色、雄蕊10個は2体をなし、細長な花柱と共に旋回して、左右不同である。

たちなたまめ

一名つるなしなたまめ

*Canavalia ensiformis DC.
(=C. gladiata DC. var. ensiformis DC.)*

西印度原産と称せられるナタマメの蔓無しの一変種で、稀に畑に栽培される。1年生草本。莖は無毛、直立或は斜上し、長さは1m内外、葉は長柄を有して互生し、3小葉がある。小葉は卵状楕円形で鈍頭又は鋭頭、先端に微凸頭がある。夏日、長梗を腋生して葉の上に出で、上部に総状花序をなして短梗の稍大形、淡紅紫色の蝶形花を多数傾下して開花する。萼は鐘形、2唇状をなし、2体をなす10雄蕊と1雌蕊がある。莢はナタマメより細く、豆は白色で少しく、長さ2cm許あり、臍点も亦短かく、その周辺のみ赤褐色を呈する。

きばなのれんりそら

Lathyrus pratensis L.

伊吹山の草原に帰化した多年生小草本。欧洲に自生し、北米にも帰化した。莖は高さ60cm内外、少数の莖を直立して生じ、纖長で、稜角があり、無毛或は軟毛散生し、疎に葉を互生する。葉は長柄を有し、葉基の托葉は大型で披針形、鋸歯脚をなし、先端鋭尖、小葉は2個、狭長楕円形、稍々鋭頭、羽軸は著しく伸びて單一或は2・3分歧する巻鬚となる。総状花序は葉腋より出て直立し、長梗を以って葉を引き、数個の蝶形花をやや疎に着ける。花は濃黄色、長さ2cm内外、萼齒は披針状3角形、萼の筒部と略々その長さが同じである。莢は広線形、長さ4cm許、斜脈があり、無毛である。

第3494図

まめ科



第3495図

まめ科



(=V. angustifolia auct. jap. non L.;
V. angustifolia L. var. minor Ohwi)

往々田畠の縁などに生ずる越年生草本で、大体はカラスノエンドウと同じであるが、全体纖細で、葉は極めて細く線状長楕円形を呈する点が異なる。莖は多くの基部より分岐して、4角柱形をなし、軟質であり、多少地上に傾臥する。葉は互生して羽状をなし、小葉は3-7対あり、全縁、線形又は線状長楕円形をなし、長さ15mm、巾2-3mm許、先端は円く、1微尖がある。基部は楔脚、柄は甚だ短い。托葉は半截箭形で鋸歯がある。4月頃葉腋から1-2個の帶紅紫色の蝶形花を横方に向けて開く。萼に5鋸歯があり、旗弁は広闊四頭、翼弁、竜骨弁はこれより短かく、濃色を呈する。

つがるふじ

Vicia Fauriae Franch.

北海道、本州北部（東北地方、越後）等に生ずる多年生草本。莖は直立して高さ60cm許、縦稜があり、上方で少しく分枝し、短柄を有する偶数羽状複葉を互生する。托葉は卵形、鋸尖頭で左右不同、縁辺に歯牙がある。小葉は2-4対あり、広披針形、長く鋸尖し、基部は広楔形で甚だ短い柄を有し、長さ10cm内外、上方の小葉は小形となり、両面に細脈が隆起する。夏日葉腋から葉を超えない短総状花序を出して、偏側して紅紫色の蝶形花を密閉する。小梗は短く、広披針形の苞を伴い、萼齒は低3角形、莢は無毛長さ6cm内外ある。

第3496図

まめ科

